

## 2023 年出題基準別 『助産師国家試験問題』 正誤表

第 38 版第 1 刷

以下の箇所に誤りがありました。謹んで訂正し、お詫びいたします。

p. 133 問題 2

【誤】

助産師は、中学 1 年生の女子生徒 30 名を対象とした 45 分間の健康教育の依頼を受けた。養護教諭と担任教諭との事前打ち合わせで、中学 1 年生で月経が発来した生徒が約半数今回の健康教育を行う内容で、優先度が高いのはどれか。

であること、月経前にイライラ感、頭痛などを訴える生徒が多いことがわかった。

【正】

助産師は、中学 1 年生の女子生徒 30 名を対象とした 45 分間の健康教育の依頼を受けた。養護教諭と担任教諭との事前打ち合わせで、中学 1 年生で月経が発来した生徒が約半数であること、月経前にイライラ感、頭痛などを訴える生徒が多いことがわかった。

今回の健康教育を行う内容で、優先度が高いのはどれか。

p. 163 問題 53 【問題文】

【誤】

36 歳の初妊婦。妊娠経過は順調であった。妊娠 39 週 0 日、3,280g の児を正常分娩で出産した。分娩所要時間は 15 時間で、総出血症は 420mL であった。

【正】

36 歳の初妊婦。妊娠経過は順調であった。妊娠 39 週 0 日、3,280g の児を正常分娩で出産した。分娩所要時間は 15 時間で、総出血量は 420mL であった。

p. 186 問題 95

【誤】

【正】

【解答】

3

4

p. 224 問題 9

【誤】

【正】

【解答】

2

3

【誤】

表 産科DICスコア

I 基礎疾患	点数	II 臨床症状	点数	III 検査項目	点数
a. 常位胎盤早期剥離 (児生存)	5	a. 急性腎不全 (無尿)	4	・血清FDP $\geq 10\mu\text{g/mL}$ ・血小板数 $\leq 10 \times 10^4/\mu\text{L}$ ・フィブリノゲン $\leq 150\text{mg/dL}$ ・PT $\geq 15$ 秒 ・出血時間 $\geq 5$ 分 ・赤沈 $\leq 4\text{mm}/15$ 分 または $\leq 15\text{mm}/\text{時間}$ ・その他の検査異常 (例: AT活性 $\leq 60\%$ )	1
同上 (児死亡)	4	同上 (乏尿)	3		1
b. 羊水塞栓症 (急性肺性心)	4	b. 急性呼吸不全 (人工換気)	4		1
同上 (人工換気)	3	同上 (酸素療法)	1		1
同上 (補助呼吸)	2	c. 臓器症状 (心臓)	4		1
同上 (酸素療法)	1	同上 (肝臓)	4		1
c. DIC型後産期出血 (低凝固)	4	同上 (脳)	4		1
同上 (2,000mL以上の出血)	3	同上 (消化器)	4		1
同上 (1,000mL以上2,000mL未満以上の出血)	1	d. 出血傾向	4		<b>判定</b> 8点以上: DICとして治療を開始。 13点以上: DICとしてよい。 (注) DICと確認するためには、13点中2点、またはそれ以上の検査成績スコア(検査項目で2点以上)が含まれる必要がある
d. 子癇	4	e. ショック症状	1		
e. その他の基礎疾患	1	・脈拍 $\geq 100/\text{分}$	1		
		・低血圧 $\leq 90\text{mmHg}$ (収縮期)	1		
		・冷汗	1		
		・蒼白	1		

日本産婦人科・新生児血液学会. 産科DICスコア. <http://www.jsognh.jp/dic/>. (参照2022-06-09).

【正】

表 産科DICスコア

I 基礎疾患	点数	II 臨床症状	点数	III 検査項目	点数
a. 常位胎盤早期剥離 (児死亡)	5	a. 急性腎不全 (無尿)	4	・血清FDP $\geq 10\mu\text{g/mL}$ ・血小板数 $\leq 10 \times 10^4/\mu\text{L}$ ・フィブリノゲン $\leq 150\text{mg/dL}$ ・PT $\geq 15$ 秒 ・出血時間 $\geq 5$ 分 ・赤沈 $\leq 4\text{mm}/15$ 分 または $\leq 15\text{mm}/\text{時間}$ ・その他の検査異常 (例: AT活性 $\leq 60\%$ )	1
同上 (児生存)	4	同上 (乏尿)	3		1
b. 羊水塞栓症 (急性肺性心)	4	b. 急性呼吸不全 (人工換気)	4		1
同上 (人工換気)	3	同上 (酸素療法)	1		1
同上 (補助呼吸)	2	c. 臓器症状 (心臓)	4		1
同上 (酸素療法)	1	同上 (肝臓)	4		1
c. DIC型後産期出血 (低凝固)	4	同上 (脳)	4		1
同上 (2,000mL以上の出血)	3	同上 (消化器)	4		1
同上 (1,000mL以上2,000mL未満以上の出血)	1	d. 出血傾向	4		<b>判定</b> 8点以上: DICとして治療を開始。 13点以上: DICとしてよい。 (注) DICと確認するためには、13点中2点、またはそれ以上の検査成績スコア(検査項目で2点以上)が含まれる必要がある
d. 子癇	4	e. ショック症状	1		
e. その他の基礎疾患	1	・脈拍 $\geq 100/\text{分}$	1		
		・低血圧 $\leq 90\text{mmHg}$ (収縮期)	1		
		・冷汗	1		
		・蒼白	1		

日本産婦人科・新生児血液学会. 産科DICスコア.

【誤】

解説

1. 平成26(2014)年の就業助産師は33,956人であり、就業保健師48,452人よりも少ない。  
2. 3. 平成26年の助産師の就業場所の実人員は、病院22,055人(65.0%)、診療所7,305人(21.5%)、助産所1,804人(5.3%)である。就業場所は、診療所よりも病院のほうが多い。  
4. 助産師の就業者数は、平成16年には25,257人であったが、平成26年には33,956人となり増加傾向にある。

5. 年齢階級別にみた助産師の就業者の構成割合は、25歳未満：5.9%、25～29歳：16.1%、30～34歳：14.8%、35～39歳：14.4%、40～44歳：14.1%、45～49歳：12.5%、50～54歳：9.4%、55～59歳：6.4%、60～64歳：3.6%、65歳以上：2.7%である。助産師の就業者数は、30歳代のほうが50歳代より多い。

【解答】 4

\*統計資料の学習では、最新データを参照すること。

【正】

解説

1. 育成医療は、昭和29(1954)年に事業が開始された。育成医療は、児童福祉法で規定する障害児において、その身体障害を除去、軽減する手術等の治療によって確実に効果が期待できる者に対して提供される、生活の能力を得るために必要な自立支援医療費の支給を行うものである。  
2. 未熟児養育事業は、昭和62(1988)年に開始され、医療を必要とする未熟児に対しては養育に必要な医療の給付を行うとともに、必要に応じて保健所職員等により未熟児の保護者に対する訪問指導を行うこととして

している。  
3. B型肝炎母子感染防止事業は、昭和60(1986)年に開始され、妊婦にHBs抗原検査を行い、陽性の場合にはHBe抗原検査を行う。HBe抗原陽性の場合には出生後に乳児に母子感染予防処置を実施するものである。  
4. 妊産婦健康診査の公費負担制度は、昭和44(1969)年に制定された。都道府県が委託した医療機関において、低所得世帯の妊婦を対象に、公費(国1/3、県2/3)による健康診査(妊娠前期及び後期各1回)を開始した。

【解答】 4

【誤】

妊娠高血圧症候群等に関わる医療費助成(療養援護費の助成)とは、妊娠高血圧症候群及び関連疾患、糖尿病、産科出血、心疾患、貧血を有する人を対象に、入院治療にかかる医療費のうち、保険適用後にかかる自己負担分が助成される制度で、①前年の所得税額が3万円以下の世帯に属する場合、②①以外で入院見込み期間が26日以上の場合に受けられる。

\*上記①②は、東京都保健局等の設定基準です。助成のための設定基準は地方自治体によって異なるため、以下のように訂正いたします。

【正】

妊娠高血圧症候群等に関わる医療費助成とは、妊娠高血圧症候群及び関連疾患、糖尿病、産科出血、心疾患、貧血を有する方を対象に、入院治療にかかる医療費のうち、保険適用後にかかる自己負担分が助成される制度である。ただし、この医療費助成が受けられる世帯は、前年の所得税額が一定以下の世帯に限定されている。その他、市町村が独自に支給基準を設けている場合もある。

2021 年 3 月、「妊産婦のための食生活指針」が改訂され、「妊娠中の体重増加指導の目安」の数値が以下のように変更されました。

妊娠前の体格	BMI	体重増加量指導の目安
低体重	18.5 未満	12～15 kg
普通体重	18.5 以上 25.0 未満	10～13 kg
肥満（1 度）	25.0 以上 30 未満	7～10 kg
肥満（2 度以上）	30 以上	個別対応（上限 5 kg までが目安）

上記改訂に伴い、以下の文言を更新いたします。

【更新前】

p. 257 解説 1

1. A さんの非妊娠時の body mass index (BMI) は  $23.2\text{kg}/\text{m}^2$  であり、妊娠中の推奨体重増加量は 7～12kg である（厚生労働省「妊産婦のための食生活指針」）。34 週時点で非妊娠時体重から 15kg 増加しており、すでに推奨量を超過している。

【更新後】

1. A さんの非妊娠時の body mass index (BMI) は  $23.2\text{kg}/\text{m}^2$  であり、妊娠中の推奨体重増加量は 10～13kg である（厚生労働省「妊産婦のための食生活指針」）。34 週時点で非妊娠時体重から 15kg 増加しており、すでに推奨量を超過している。

p. 259 問題 34

【特定不妊治療費助成事業につきまして】

令和 4 年度（2022 年度）4 月からの 不妊治療の保険適用化に伴い、令和 4（2022）年 4 月 1 日以降に不妊治療を開始する人への助成制度は廃止されました。ただし、令和 4（2022）年 3 月 31 日までに治療を開始し、同年 4 月 1 日以降に終了する保険適用外で実施した治療については、国の方針に準じた経過措置がとられています（経過措置の申請期限は令和 5 年 3 月 31 日まで）。